

五十一 祓詞

掛卷くも畏き親神天理王命の宇豆の御前に恐み  
恐みも白さく

今し故天理教△△分教会○代会長△△△△大人  
の遷霊 発葬の業に仕え奉る教人信者又家族  
親族諸人等が意わずも犯しけむ心違に 又見触  
れ聞き触れけむ埃等のあらむおば 朝の御霧夕の  
御霧を朝風夕風の吹きはらす事が如く麻のさやぎ  
のさやさやに祓い給い清め給いて斎員等もろもろ手  
のまがい足のまがいあらしめ給わず遷霊発葬の業、  
元来たがわず美わしく仕え終えしめ給えと恐み恐  
みも白す